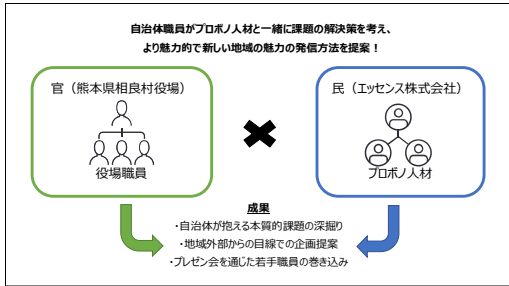


プロボノ活動を通じた、村民主体の川辺川魅力発信事業の企画

熊本県相良村 × エッセンス株式会社

取組概要

エッセンス株式会社実施するプロボノ事業「itteki」に参加したプロボノメンバーが、熊本県相良村の「村役場が運営するSNSを活用した発信力強化」という課題に対し、「村民が主役となった村の魅力のPR」という本質的な課題への深掘りを行ったうえで、新たなPR企画を立案。総務課長にもプレゼンを行い、今後企画の実行に向けて継続的に連携予定。



自治体職員とプロボノ人材による官民連携

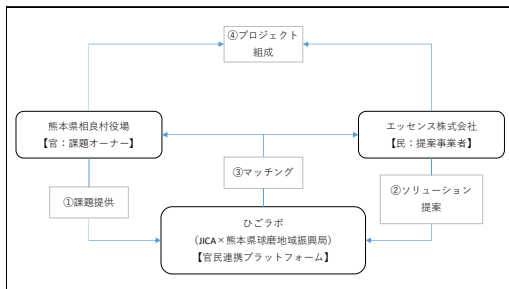


企画提案書と総務課長へのプレゼン会

基本情報

代表地方公共団体	熊本県相良村
代表民間団体	エッセンス株式会社
他の連携団体等	ひごラボ（JICA×熊本県球磨地域振興局）
カテゴリ	観光客の誘致／地域振興・交流／地域情報・行政情報発信
事業費	0円
めざすSDGsゴール	
事業化までの期間	2022年6月～2022年10月

取組内容



プロボノプロジェクト組成までの流れ



役員職員とプロボノ人材による課題の深掘り

この取組で解決した課題	自治体職員は既存業務を継続実施することに長けている一方で、その業務がなぜ行われているかという本質的課題の深掘りの経験が不足する傾向がある。本プロジェクト内でプロボノメンバーとのディスカッションを行うことで、設定課題の本質的な部分に到達することが出来た。また、相良村役場が運営するInstagram「さからムーブ」の発信内容が内部目線になっていたが、プロボノメンバーに現地に来訪いただくことで、外部目線で地域の新たな魅力を発掘することが出来た。「自治体職員の教育」の観点では、地域外／民間の人材との接点が圧倒的に不足している自治体職員が、本プログラムを通じて都心の大企業に勤めるプロボノメンバーとの接点を持つことが出来た。最終的に、自治体職員からの提案では企画化・予算化が難しいような提案について、外部からの目線を取り入れプロボノメンバーにプレゼンいただくことで、総務課長から良い評価を得ることが出来た。
解決に向けた手法	2022.06.08：エッセンス社プロボノマッチングセミナーを相良村が聴講 2022.06.21：相良村とエッセンスの間で打合せを実施 2022.08.03：相良村がエッセンスのプロボノマッチングセミナーに登壇。プロボノメンバー候補にPR 2022.08.23：相良村とプロボノメンバーとの第1回MTGの開催 2022.10.07：エッセンスのプロボノ報告会開催。非常に高い評価を獲得 2022.10.13：プロボノメンバーによる総務課長向けプレゼン会を実施。役場の若手職員約20名も聴講 なお、相良村とエッセンスのマッチングにおいて、人吉球磨10市町村の課題解決官民連携プラットフォームである「ひごラボ」がサポートを行った

取組詳細

事業推進上の各団体の役割分担	【エッセンス】プロボノ人材とのマッチングの場の提供、人材の選定、プロボノ活動のマッチング（プロボノ人材）プロボノ活動の進行、提案書の作成 【相良村】プロボノ活動の受け入れ、住民へのヒアリング 【ひごラボ】エッセンス社と相良村のマッチング、プロボノ活動の後方支援
地域関係者との連携方法	【役場職員】プロボノ活動で作成した企画を村全体で実施していくために、総務課長への説明会に役場職員にもオブザーブ参加いただき、個人間の協力体制を構築した 【地域住民】本企画の中心となるのは住民であるため、住民目線での村の魅力をヒアリングすることで、今後の活動につながる関係性を構築した
資金調達方法	「itteki」プログラムの参加企業からエッセンス社に対し、社員の研修業務委託費が支払われている
資金調達方法の補足	・本事業においては資金を調達していない ・来年度予算を獲得する上で、まずは総務課長の承認がカギとなるが、プレゼン会を実施出来たことで、企画承認に向けたハードルを下げる事が出来た
事業推進上の課題・工夫	当社では、「itteki」プログラムの活動テーマの設定において、プロボノ活動者に推進方向性の議論の余地を残すことと、受け入れ団体様の本質的な課題の解決に繋がること、の2点を心がけております。 ただ、今回の事例の場合は、相良村様の方で「SNS発信方法の定型化」という限定的なテーマの設定がされており、活動者からはそれが相良村様の本来的な課題であるのか、について疑問の声が上がりました。 上記の点について、当社の担当ファシリテーターが調整に入りながら、活動者の皆様を中心に、より同村にとってインパクトのあるテーマ探索が行われました。 事務局としての当初のテーマの設定には課題があったものの、活動者と受け入れ団体の相互理解を深めるワークを活動初日と2回目のミーティング時に開催することで、相互の信頼関係の構築と心理的安全性の担保を促す工夫が奏効し、早期の軌道修正を図ることができたと考えております。

担当者のコメント

プロボノ活動を通して、活動者の皆様は相良村の持つ魅力やポテンシャルを非常に理解され、未訪問でありながら、既に同村のファン・インフルエンサーとなっていらっしゃいます。

地域の魅力発掘や発信課題を、現地の自治体担当者と、地域との接点のない活動者として「共に行う」プロセスを共有することで、現地に足を運ばずとも、サードプレイスとして当事者意識を持って得るといふ、地域にとっては可能性を多く見出だせる事例であると感じました。



プロボメンバー+相良村+エッセンス

優良事例応募項目

取組のポイント（3つの視点）	<p>①地方創生SDGsの視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「5 ジェンダー平等」の観点から、老若男女問わず全ての住民が輝くことの出来る企画を提案 ・「11 住み続けられるまちづくり」の観点から、住民がまずは自身の趣味嗜好を発信することから開始し、徐々に地域課題の共有や解決策の検討等、コミュニケーションを活性化する方向に発展 ・「6 安全な水とトイレを世界中に、14 海の豊かさを守ろう」に関連し、16年連続水質日本一である川辺川と共に生き、環境を守りながら生きている住民の「生き方」そのものが地方創生SDGsの考え方に合致 <p>②ステークホルダーとの連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・提案企画実施にあたって、提案の採択権を持つ総務課長へのプレゼンを実施 ・役場の若手職員約20名もプレゼンを聴講し、それぞれの立場における協力体制を構築 ・地域住民へのヒアリングを通じ、本企画への参加意欲も合わせて醸成 <p>③モデル性・波及性</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全国の地方自治体が抱える「人口減少」という社会的問題に対し、都心の大企業に勤める人材がプロボノ活動を通じてまずは「関係人口」となり、居住地や勤務地以外の新しい「人口」のモデルの構築 ・観光客の呼び込みや移住定住人口を増やす目的で、まずは地域に興味を持ってもらうために、「自治体事業へのプロボノ参画」という新しい関わりしるを提供 ・「itteki」サービスの発展系として、人吉球磨10市町村の課題を「オンライン検討×現地検証」の形で実施するプログラムの検討に着手
----------------	--